

令和6年度 退院調整に関する実態調査結果報告（概要版）

1 調査の目的

本調査は、市内居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャーを対象に、退院調整の状況および「入院・退院サポートマップ」「医療・ケアについてのもしも手帳」等のツールの認知度や活用状況について把握することを目的としています。

2 調査の概要

- (1) 調査対象者
 - ・市内居宅介護支援事業所 864 か所に勤務するケアマネジャー約 3,200 人
- (2) 調査の方法
 - ・郵送にて調査票を送付。無記名方式で回答、事業所単位で郵送にて回収。
- (3) 調査対象期間
 - ・令和6年9月の1か月間の退院調整状況
- (4) 回収結果
 - ・回答事業所数 587 か所／864 か所（回収率 67.9%）
 - ・調査票回収数（回答ケアマネジャー数）2,041 件 有効回答数 2,041 件

3 調査結果

- (1) ケアマネジャーの状況
 - ・基礎資格は 90.8%が福祉系資格（介護福祉士 73.9%、社会福祉士 10.4%、その他福祉職 6.5%）です。
 - ・経験年数は 15年以上が最多で 28.0%を占めました。10年以上が増加傾向で、52.8%と半数を超えています。
- (2) 利用者の状況
 - ・ケアマネジャー1人あたりの利用者数は 36.6人で、年々微増傾向にあり、平均すると1年あたり1.1人増加しています。
 - ・ケアマネジャー1人あたりの利用者の介護度は、「要介護2」（10.4人）が最も多くなっています。次いで、「要支援1・2」（8.5人）が多く、前回調査と比較して大きな変化はありません。
- (3) 退院調整対象者の状況
 - ・退院調整対象者は 1,431 人で、昨年度より増加しており、年代別では 80 代が 45.2%で最も多くなっています。
 - ・入院の原因となった主な疾患は、「整形外科系疾患」（23.1%）が最も多く、次いで「がん（末期）」（10.1%）、「脳血管疾患」（9.8%）でした。
- (4) 退院調整の状況
 - ・退院調整を行ったケアマネジャーは 47.4%で、昨年度の 44.9%より高くなっています。ケアマネジャー1人あたりの退院調整を行った件数は、1件（66.6%）が最も多く、次いで2件（22.8%）、3件（7.7%）でした。
 - ・病院から退院支援の連絡があった割合は、76.8%であり、減少傾向にあります。疾患別にみると、「神経難病」（90.2%）、「整形外科疾患」（84.6%）、「脳血管障害」（84.3%）、などは連絡ありが多く、一方で「泌尿器系疾患」は連絡ありが53.6%と低くなっています。
- (5) 在宅療養支援に関する各ツールの認知度
 - ・各種ツールの認知度はいずれも若干減少しています。
 - ・経験年数が5年未満の認知度がいずれも5年以上より低くなっています。

4 その他

「入院・退院サポートマップ」をはじめとした退院調整をスムーズにするための情報共有ツールは、本市のホームページからダウンロードできます。ぜひご活用ください。

URL:<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/zaitaku/taiinchouseitool.html>